2015 年 9 月 15 日発行　年 3 回発行　通巻 80 号　PRINT ISSN 1341-545X　ONLINE ISSN 2189-5023

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 21, No. 2　神奈川県立生命の星・地球博物館　Sept., 2015

フォッサマグナ発祥の地

長野県南牧村野辺山の平沢峠から見た南アルプス。左手奥の雪をかぶっている峰が北岳。手前は、「フォッサマグナ発祥の地」の説明板。

平田　大二（館長）

フォッサマグナは、日本列島を東西に分ける地形学的・地質学的な大構造帯です。神奈川の大地もフォッサマグナの一部です。このフォッサマグナを発見したのは、ドイツ人地質学者のハインリッヒ・エドムント・ナウマン（Heinrich Edmund Naumann, 1854 ～ 1927）でした。

ナウマンは、明治政府に招聘されて 1875 年（明治 8 年）に来日し、直ちに日本国内の地質調査を始めました。1875 年 11 月に長野県野辺山周辺を訪れたナウマンは、壁のように立ち上がる南アルプスの山並みを見て驚き、それが大地溝帯であると思いついて、後にフォッサマグナ（ラテン語で大きな裂け目という意味）と名づけました。

フォッサマグナについては当時から現在まで多くの議論が続いています。フォッサマグナの範囲は、西側の境は糸魚川－静岡構造線ですが、東側の境については研究者により意見が異なります。私もフォッサマグナの成り立ちを知りたくなり、同じ興味を持つ方々とナウマンが歩いた道をたどりながら調べ始めているところです。